JELES-48@早稲田大学8号館
3階303/304/305会議室
10:30-10:50

外国語コミュニケーションの学習目安として、スピーキングテストOPIcに『スコア開発率』適用を考える

２０１８年３月４日（日）
一般社団法人Ｇｌｏｂａｌ８

会長　八木　智裕

http://global8.or.jp

Table of Contents

- スピーキングテストOPIcについて
- 価値共創型学習モデルについて
- 提供者のリテラシー獲得に向けて
- 受給者のリテラシー向上を目指して「スコア開発率」適用を考える
- 纏　め

スピーキングテストOPI c について*1

- ACTFL*2ガイドに準拠し、実際のビジネスや生活の場でいかに効果的で適切に言語を使えるかの言語駆使能力を客観的に測定できるテスト

- LTI監督のもとOPI含め昨年世界120ケ国以上で、60万人を超える受験者

- ACE*3単位認証ガイドに準拠し、2,000を超える大学が単位認定に活用中

- 日本では英語に続き、留学生中心に日本語スピーキングテストを提供

- *1 http://global8.or.jp/opic.html
- *2 American Council on the Teaching of Foreign Languages https://www.actfl.org/
- *3 American Council on Education http://www.acenet.edu/Pages/default.aspx

OPIcを開発しているACTFLによる学校履修目安とUS政府が定める職務基準の関係

レベル名称	今回実証適用値	言語能力	米国での職務ガイド	修得対象	FSI到達ガイド
Advanced Low(AL)	9	自分の考えや経験を流暢に表現できる。討論や交渉、説得など実際の業務で駆使することができる。	・Customer Service Agent, Social Worker, Claims Processor,K-12 Language Teacher, Police Officer, Maintenance Administrator, Billing Clerk, Legal Secretary, Legal Receptionist	・Undergraduate language majors with year-long study abroad experience	1320h
Intermediate High(IH)	8	文法的に大きな間違いが無く言語を駆使し、基本的なビジネスや会議でコミュニケーションができる。	・Auto Inspector, Aviation Personnel, Missionary, Tour guide	・Undergraduate language majors without year-long study abroad experience	
Intermediate Mid(IM3～IM1)	7 6 5	小さな文法的ミスはあるものの、長いセンテンスを駆使し、基本的なコミュニケーションができる。 ※IM3（上）、IM2（中）、IM1（下）に細分化	・Cashier, Sales clerk(highly predictable cintexts)	・L2learners after 6-8 year sequences of study(AP,etc.) ・4-6 semester college sequence	
Intermediate Low(IL)	4	日常的な話題はセンテンスで話すことができる。会話に参加し、興味のある話題は自信を持って話すことができる。	・Receptionist, Housekeeping Staff	・L2learners after 4 year high school sequence or 2 semester college sequence	480h
Novice High(NH)	3	簡単な単語や句を駆使してコミュニケーションができる。		・L2learners after 2 years of high school language study	
Novice Mid(NM)	2	既に暗記している単語やセンテンスで話すことができる。			
Novice Low(NL)	1	限定的ではあるが、単語を羅列して話すことができる。			

概念定義

サービス科学：RISTEX助成研究
高等教育を対象とした提供者のコンピテンシーと受給者のリテラシーの向上による共創的価値*1の実現方法の開発 - Project VELCOLE - ：記念フォーラム発表より抜粋

コンピテンシー

- ある文脈下で価値を実現する際に用いられる知識やスキル

リテラシー

- 文脈価値を実現するために必要なコンピテンシーを適用するための能力
- コンピテンシーを適用する能力だけでなく、提供者と受給者が互いのコンテキストを共有し、すり合わせる能力を含む

メタ認知

- リテラシーの中核となる能力概念
- 「知覚する」「記憶する」「理解する」などの自己の認知活動を客体化して把握し、それらの認知活動をコントロールする能力
- コンテキストの共有とすり合わせを行う上では、自身の認知活動だけなく、他者の認知活動も把握し、必要に応じて変容を促すことが必要

*1 **価値共創型学習モデル** www.comp.tmu.ac.jp/smmlab/research/velcole/index.html

提供者のリテラシー獲得に向けて

コンピテンシーの適用開始時(Pre)と終了時(Post)にOPIc評価を実施し、Preを統制群Postを実験群として夫々の平均・偏差を使った効果量*1と上昇・下降の合計平均をUP/DN率として把握・評価し、リテラシーの改善に役立てる

コンピテンシー継続により、受給者サイドにおいてコンテキストの変容が促される

- *1 効果量と検定力分析入門(水本、竹内) www.mizumot.com/method/mizumoto-takeuchi.pdf
  効果量評価はCohen(1988)の基準を用いて、
  f = 0.10(効果量小), 0.25(効果量中), 0.40(効果量大)で分類

OPIcプリーポスト評価立合で興味を覚えた結果（JELES46より）

No	サイト	クラス	n	プリM	SD	ポストM	SD	効果量	UP/DN率	AL人数	実用比率	到達比率	備考
1	東京大学	工学部Mスカイプ	20	6.8	1.54	7.5	1	0.42	65	1	70	100	RISTEX検証対象
2	青山学院大学	経済学部ゼミ生	30	5.8	1.58	6.2	1,71	0.25	20		36.7	60	
		3年次	19	5.6	1.84	5.9	1.87	0.16	36.8		36.8	63.2	
		同上卒業前	19	5.9	1.87	6.2	1.89	0.16	21.1	2	31.6	73.7	
		新3年生	24	5	1.57					2	8.3	45.8	襷は繋がるか？
3	関西大学	KU-COIL	13	4.8	1.36	5.2	1.09	0.29	46.2		7.7	76.9	
4			20	4.7	1.23	4.9	1.02	0.16	25		5	70	
5			13	4	1.15	4.6	1.12	0.54	61.5			53.8	科研費
6			99	3.9	1.09	4.1	1.04	0.22	24.2		2	26.3	
7			8	3.8	0.46	4.1	0.64	0.65	37.5			25	プリ19名
8			14	3.8	0.58	3.9	0.86	0.17	7.1			21.4	
9			19	3.8	1.08	3.8	1.26	0.00	5.3			31.6	
10			16	3.6	1.26	3.8	1.33	0.16	18.8		6.3	12.5	科研費
11	実践女子大学短期大学部	教材統制スカイプ	23	3.4	1.08	3.7	0.83	0.28	21.7			17.4	
12	実践女子大学短期大学部	一般スカイプ	19	3.1	0.85	3.3	0.82	0.24	26.3			5.3	
13	実践女子大学短期大学部	海外短期留学	20	3	0.82	3.7	0.75	0.85	40			10.0	
14	西九州大学	留学準備短期合宿	29	2.5	0.63	3.1	0.75	0.87	55.2			0	
15	関東国際高校	1年生ハワイ	20	3.0	0.83			#VALUE!					
16	某中校一貫校	中学3年生	69	2.8	0.71	3.4	0.76	0.85	59.4				ｵｰｽﾄﾗﾘｱ修学旅行の中間層半分のﾎﾟｽﾄﾃｽﾄ
			494										
cf	高校3年生26年度調査		16,583	1.94									

過去３年間の実施実績総括

年　度	2015	2016	2017	
学　会	2015ＬＥＴ 全国大会で出会い	2016ＬＥＴ 全国大会共同発表	2017JASELE 全国大会発表	―
社会へのつながり	―	―	―	ＳＰ４年生対象 学内研究 プロジェクト
ゼミ内のつながり	３年生若本ゼミ生 中心に試行	科研採択1年目 ２ゼミ対象実施	科研採択1年目 ２ゼミ対象実施	―
高校からのつながり	―	１年生希望者 対象に有償実施 4.7,初回UR14.3%	←１年生希望者5.2,初回UR15.4% 2年生継続希望　5.7	
受験延べ人数	43	98	200＋	
効果分析有効対象者数	20	29	ゼミ内	ＳＰ
前ステップからの平均	4.7	4.4	5.2	4.8
次への平均	4.9	4.8	―	―
効果量	0.18	0.46	―	―
特記事項	―	―	―	ＡＬ２名

体験者の声：http://global8.or.jp/posts/service3.html

今年の実施内容纏め

プログラム名	科研	SP	自主
実施タイプ	ﾌﾟﾘｰﾎﾟｽﾄ	ﾌﾟﾘｰﾎﾟｽﾄ	1回
対象学年	3年生	4年生	1－2年生
受験人数	34	55	16
IH以上	4（11．8%）	7（12．7%）	2（12．5%）
ACTFL/ACE基準未達	7（20．6%）	16（29．1%）	4（25%）
平均	5．3→5．4	4．8→5．2	1年生:5．2　2年生:5．7
効果量	0．10	0．30	―
継続効果	FY16　4．4→4．8 効果量0．46	―	5．2→5．7
備考	38名で設定		UR15．4%

受給者のリテラシー向上を目指して「スコア開発率」適用を考える

2018/1/6 第138回次世代大学教育研究会（@那覇）で存在認識

- 2012/4/14 第68回次世代大学教育研究会（@大阪）初出*1

ICT時代の受給者は結果に対して、敏感かつせっかち？

最終目標レベルを掲げ続けるより、先ず当面提供可能な時間（提供されるコンピテンシー関連の拘束時間）で、どのようなレベルが導かれるか「スコア開発率」を使って導けないか？

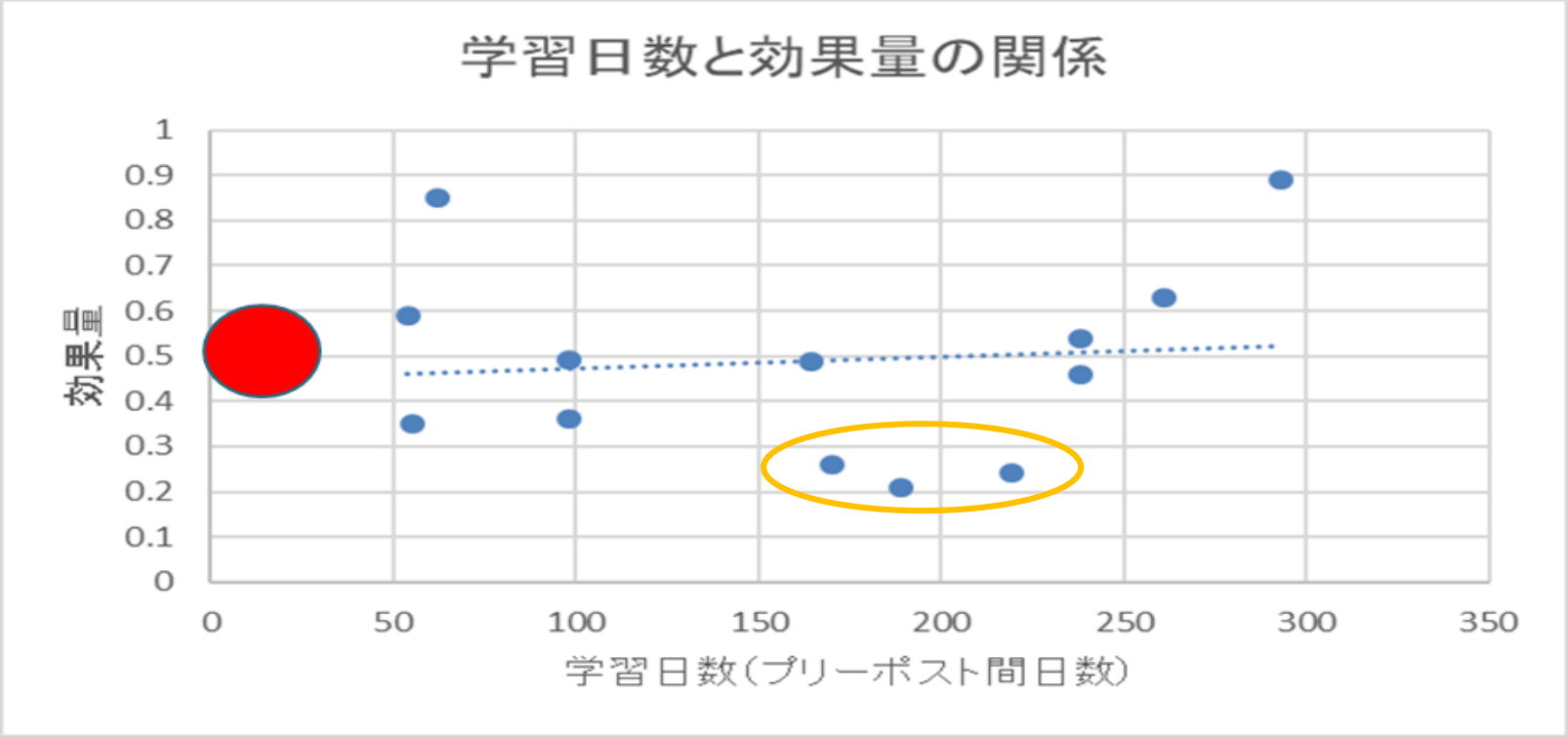
- その際の基準として「スコア開発率」が提起した、テスト最上位スコアでは無く当面のグループ基準が必要では無いか？

- *1 https://www.slideshare.net/nextedujimu/sakai-20120414-12545552

ICT時代の受給者は結果に対して敏感かつせっかちと感じている

缶詰教育でも短期間でスコア上昇、スピーキングへの抵抗が無くなると参加満足度が高い

- グローバル人材育成教育学会　第5回全国大会@北海道情報大学*1



- *1 http://global8.or.jp/JAGCE17_poster.pdf

最終到達希望より、先ず当面提供可能な時間で、どのようなレベルが導かれるか「スコア開発率」を使って導けないか？

市場期待が強過ぎ、自己肯定感が益々弱くなっている？

- OPIc OnSite Survey:**現状の評価と学習（留学）後、就職前になりたい評価は？**
  JELES47**紹介** → CY17 Report*1

CY16

	NL	NM	NH	IL	IM	IH	AL
AL	0.93	1.4	3.27	7.01	3.74	1.4	2.34
IH	0.93	5.61	11.7	16.8	3.74	0.93	
IM	4.21	8.41	9.35	3.74	0.47		
IL	1.87	5.14	2.8				
NH	1.4	0.93	0.47				
NM	0.93						
NL	0.47						

>10%
>5%
>3%

CY17

	NL	NM	NH	IL	IM	IH	AL
AL	1.44	1.72	3.74	6.18	3.74	1.01	1.29
IH	1.44	5.89	9.91	12.4	4.31	0.86	
IM	2.87	9.34	10.9	4.31	0.86		
IL	3.16	4.74	3.02	1.01			
NH	1.15	0.86	0.86				
NM	1.01	1.29					
NL	0.72						

CY16→CY17 **アンケート対象者が3桁から4桁に増えたが現状認識並びに目標レベルは低下**

現在IL以下と判断者:87.37%→87.93%

将来IM以上を目指す者:85.98%→82.18%

実用レベルIH以上を目指す者:59.8%→53.88%

- *1 http://global8.or.jp/survey17.pdf

基準として「スコア開発率」が提起したテスト最上位スコアでは無く当面のグループ基準が必要では無いか？

- OPIcの最上位スコアはAL＝９　OPIでは更に上位もあるが従来の受験者における英語AL獲得者は１桁％の下位
  - 留学生におけるAL獲得者は2桁％を大きく超えてOPI指標の導入も必要と考える
- ACTFLガイドを目安として最上位に設定
- 実態を踏まえ設定
- 自己肯定感の弱い実態の事前自己評価（OPIcに対し不案内）を基準に設定するか、或いはPreテスト評価のフィードバック後の自己目標を基準に設定
  - アンケートを記名化かつフォローが課題

参考：サマリレポートのサンプル(JELES47)

事前自己分析（現状と目標）ープリテストーポストテストー今後の目標設定の変容

今後獲得したい評価 ＼ 現状の評価（自己評価）	Novice Low	Novice Mid	Novice High	Intermediate Low	Intermediate Mid	Intermediate High	Advanced Low
Advanced Low		1	3	1	1		①3
Intermediate High		3	3	5		6	
Intermediate Mid	2	1	1		⑧⑮10		
Intermediate Low			1	⑪⑥1			
Novice High			②1				
Novice Mid		①1					
Novice Low							

事前自己分析（現状と目標）：黒字（n＝22）
プリテスト結果：青字（n＝22）
ポストテスト結果：紫字（n＝22）
ポストテスト後の今後の目標：オレンジ字（n＝22）

①プリテスト時点ですら、自身の能力は自己否定するほど低くは無い

②着実にスキル向上はする

③闇雲に高い目標感では無く、当面達成可能或いは実務的なレベルに軌道修正

－－－－－－－－－－－－

どのような学習方法、履修終了後も含めた学び方へのガイド（今後の挑戦）

OPIc
ACTFL Oral Proficiency Interview - computer®

アンケートも入手出来、比較的規模の大きなトライアルで開示許諾を頂いた3例における「スコア開発率」適用の結果

プログラム名	実施サイズ	平均推移	対象外（AL）	スコア減衰率適用者（比率）	阪井	ACTFL（対象外：%）	事前目標（対象外：%）事後目標（対象外：%）
SP	53	4．8→5．2	2	4（7．3%）	13．5	16．9（3人：5.7%）	23．8（3人:5.7%）29．2（3人:5.7%）
科研	34	5．3→5．4	0	3（8．8%）	8．9	12．3（2人：5.9%）	16．0（2人:5.9%）27．7（3人:8.9%）
KU-COIL	73	4．5→5．0	0	3（4．1%）	16．4	13．6（30人：41.1%）	211.4（53人:72.6%）96.2（4人:5.5%）

適用効果発表： www.j-agce.org/kansai-4/
→平成30年度「大学の世界展開力強化事業」:「COIL型教育を活用した米国等との大学間交流形成支援」
http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/sekaitenkai/1401591.htm

GLOBAL8

纏　め

受給者のリテラシー向上に向け「スコア開発率」適用は検討に値する

- 求む！適用検証の場

「スコア開発率」の妥当な設定値のガイドが乏しい

- ご指導宜しくお願いします！

現状では、コンピテンシー適用後のPost評価後のアンケート結果目標を次年度の目標レベル設定としコンテキスト共有を促進する

大規模クラスの場合、やむを得ず同一コンピテンシーの提供を余儀なくされるが、Preテスト前のアンケート目標或いはOPIc評価結果を踏まえ、コンテキスト修正を指導し、目標達成・満足度に寄与する

OPIc

ACTFL Oral Proficiency Interview - computer ®

時間軸と空間軸を見据えたつながり

Global8 → ∞